

# 平成31年度 岡崎市予算編成方針

## 基本方針

政府は、骨太の方針である「経済財政運営と改革の基本方針 2018」において、少子高齢化を克服し持続的な成長を実現するため、「人づくり革命」と「生産性革命」に最優先で取り組み、地域へ新しい人の流れを生み出すことで地方創生を実現するとしている。

本市における平成31年度は、乙川リバーフロント地区整備や東岡崎駅・JR岡崎駅周辺整備、さらには南部の大学病院が2020年4月に開業予定であることなど、第6次岡崎市総合計画後期基本計画の重点プロジェクト及び岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の各施策をとおして、本市の顔づくりが進んでいくだけでなく、未来を託す子どもたちの夏場の学習環境の整備を進め、夢ある新しい岡崎が実現するための大きな一歩を刻む1年となる。

予算編成において、歳入では、長期にわたる景気の回復基調に支えられて市税収入は増加傾向にあるものの、地方交付税及び臨時財政対策債が段階的に縮減することや、近年、国県支出金の減額が顕著であることなどから厳しい状況が見込まれる。一方、歳出では、増加を続ける社会保障関係経費に対応するほか、消費税増税などの国の政策にも対応しなければならない。また、継続費を設定している大型事業や、小中学校のエアコン整備など、市の政策的な事業にも対応が求められている。

以上のことから、歳入は、特定財源の確保、財政調整基金を始めとする各基金や市債の積極的な活用により財源確保を図ることとする。歳出は、事業の優先順位付けを重要視し、施策・事業の有効性、効率性を点検し、事業の取捨選択を行うとともに、多額の不用額が生じないよう予算精査を行うこととする。